

銀の宝と鉄の宝

気弱な男が海賊に酔拳を教わり、村を襲った  
野盗を倒す話

作・れあ

登場人物

小鉄（16）

鍛冶屋。漁師の息子。大柄。

気が弱い。

ギン（35）

海賊。右腕が無い。やや小柄。

村長（70）

野盗頭

野盗1

野盗2

野盗3

野盗4

村人たち

○浜、船着き場、朝

網にかかった魚を海に逃がしている、

小鉄（いも）。

村人 「ころっ小鉄！ また魚を放れおって

！」

小鉄 「さ、ごめん。だってかわいいそうだから

り」

謝りながら逃げる小鉄。

村人 「漁師の息子が何言うとする！」

村人 「まったく情けない。困った奴じゃ」

○浜

とぼとぼと歩く小鉄。浜に小舟が流れ

着き、人が倒れているのを発見。

小鉄 「！」

驚いて逃げ帰る小鉄。

手に酒瓶を持ち再び浜へ。

倒れている男、ギレ（ろろ）を抱き起

こそ。

小鉄 「あんた、大丈夫か？ ほれ、気づけ  
の酒いや？」

ギンの右腕が無く、巻いた布に血が着  
いているのに気づき、おびえる。

小鉄 「ひええっ」

ギン 「うーん」

小鉄 「気がついたか。ここいらには野盗が

出て危ねえぞ、早く逃げた方がええ」

ギン 「ミ野盗？ このは、そいつらの事が？」

振り返る小鉄の後ろに二人の野盗。

野盗 「あめえ、外国人だな？ 着物も中身

も高く売れそうだなア！」

おびえて腰を抜かる小鉄。

小鉄 「ひえっ！ い、命だけはどうか」

ギン 「ミおい、デカいの。もっと酒よこしな

小鉄 「へ？」

ギン、酒瓶を奪い取り、酒を一気にあ

あつてフラっきながら立ち上がる。

小鉄 「危ねえ！ ミえっ？」

千鳥足で野盗に近づいたギン、ユラユラとした不思議な動きであっという間に野盗たちを倒す。左腕が腰から剣を抜き斬りつけるが、浅い。

野盗「こいつ、やりやがる！」

野盗「ちくしょう！」

逃げていく野盗たち。

ギン「斬りそこねたか？」

小鉄「その剣」

ギン「ん？」

小鉄「曲がったし、刃こぼれもひどい。

それに脂まみれだ。……人をたくさん斬った

な？」

ギン「へえ。お前、刀鍛冶か何か？」

と、遠くから悲鳴。

小鉄「大変だ、奴ら村にも！」

○村

野盗「オラオラ！ 女子供売り飛ばしても

いんだぜ？」

村長「ワロ」に刀をつきつける野盗。

村長「それだけはどうかミ！」

野盗4「嫌なり、今すぐありったけの食い物

と金目の物、みんなよこしな」

村長「さ、差し上げますから、命だけはご

かんべんをミ！」

村の入口、ギンの背に隠れて震えろ小

鉄。

小鉄「ひええ。どうしようミ」

ギン「でけえくせに肝の小せえ奴だ。ど

いてろ。酒のれだ」

酒瓶をあり、空になり投げ捨てる。

先程と同じく、千鳥足の不思議な足取

りで野盗たちを倒してしまう。

野盗3「なんだこいつ、強え！」

野盗4「頭に報告だ！ 避くぞ！」

野盗たちが逃げ去っていく。

小鉄「す、あげえミ」

村長「ふいなんちゆうことを！ せっかく

大人しくしていたのに！」

村人 「報復されたり村は終わりじゃ！」

うし てくれるんだ！」

ギン 「なんだよ。せっかく俺様が珍しく人

助けしてやったのに」

立ち去るギン。

村人 「あんなよそ者拾ったときあって、また

小鉄 か！ 気が優れすぎるのも大概にしろ

！」

小鉄 「ミジ、ごめん皆ミニ！」

○浜

ギンを追いかける小鉄。

小鉄 「あーい、あんだ！ 待つとくれ！」

ギン 「あん？」

小鉄 「さっきの拳法、おれに教えてくれん

か？」

ギン 「何？」

小鉄 「村を守らなきゃ。おれ、強くなり

たいんたし

ギン 「タタでか？」

小鉄 「えーっと。さっきの剣、鍛え直し

てやる！」

ギン 「足りねえな。酒をあるだけよこしな。

それともしお前が連中を倒せたら、奴ら

の持つてるお宝のワ割、俺様のもんだ」

小鉄 「本当か！ 酒も宝もみんなやる！」

だからたのお！」

ギン 「いいせ。名前は？」

小鉄 「小鉄だ」

ギン 「ギン。よろしくな」

○海の上、沖、小舟

舟のへりにつかまり、吐いている小鉄

と、平気な顔で酒を飲むギン。

小鉄 「オエッ。なあ、本当にこんで

さっきの出来るようになるんか？」

ギン 「ああ。ありや酔拳。つつてな、酔っ

おつたような動きがしたる。あの足運び

を覚えるのに、これが手。取り早いのだし

ギン、片手で器用に酒をあひる。

小鉄「あんたが酒飲んでるのも、そのため

か？」

ギン「いや、これは傷が痛むんでね。それ

を忘れたのださし

小鉄「その腕はミミし

ギン「部下にやられたのださ。賢い奴だった。

船で一番信頼してたんだが、あいつは賢す

きたな。俺様を裏切って、船を乗っ取られ

ちまったし

小鉄「ミミし

○浜、夕方

フラフラしてまっすぐ歩けない小鉄。

小鉄「なんだこりゃ、地面がまだ揺れてる

ぞい？」

ギン「ははは、そりゃ陸酔いだ。いっぱし

の海の男はゐ、あつと船が揺られてっから、

陸に上がると逆に酔つちまうのさ

小鉄 「へえ。ミオエエッ」

ギン 「ははは」

○海遠景、小舟が浮かんでいゝ

村長 「小鉄の奴は、またあの妙な男と沖へ

出とるのか」

村人 「もう／週間だべ。一体何をしとるん

だか。村の若いのがあれではゐミ」

村長 「放つておけ。わしらが村を守るしか

ねえだ」

○小舟

水の入った猪口を頭にのせた小鉄。

波で舟が揺れ、引っくり返る。

ギン 「こぼしたな。もう／回だ」

小鉄 「ああ」

波と一緒に魚が入ってきたのに気がき、

海に逃がす小鉄。

ギン 「放つとすよそんな雑魚」

小鉄 「かわいそうだ」

ギン 「変な奴」

小鉄 「ミおれ、魚がかわいそうで魚ができ

なくて。家も追い出されたんだ」。

ギン 「で、鍛冶屋か」

小鉄 「ああ。ミ親父は、去年漁に出たまま

死にしまった。船だけ帰って来た。ミなあ

あんた海の向こうから来たんなら、帰るの

にこんな小舟じゃ無理だろ。親父の船、か

ろうか」

ギン 「ミいいのかよ」

小鉄 「ミ使ってもさう方が、きつと親父も

船も喜ぶ」

ギン 「ミミ」

酒もあり陸地も見えギン、村から煙

が上がっているのに気づく。

ギン 「あれはミ」

小鉄

「まあい、奴らだ！」

○村

家や船が壊され、荒れ果てた村。

小鉄

「まゝ待てミ！」

舟酔いと陸酔いでフラつきながら野盗

に近づく小鉄。殴ろうとするも、へ口

へ口であっさり止められる。

野盗

「なんだこいつ？」

弱すぎるだろ」

野盗

「引っ込んでな！」

地面に転がされる小鉄。拳を見つめる

小鉄

「なんで？」

ギン

「お前本当にバカだな」

「遠いくばる小鉄を見下ろすギン。

ギン

「あんな舟遊びで強くなれるわけねえ

だろ。」

あんなの夕だ酒のための嘘さ」

小鉄

「ご迷惑したのか」

ギン

「お前みたいな雑魚に何ができる」

小鉄

「ミ！」

フラつく足で立ち上がる小鉄。

ギン 「誰も乗らねえ船なんか、いっせ壊さ

れちまえよ」

小鉄 「なんだとミ！」

ギンを殴り飛ばす小鉄。ギンの手から

酒瓶が転がり落ちる。

ギン 「やればできるいやねえか」

小鉄 「え？ ミもしかして、今わおとミ」

ギン 「バカは扱いやなくて助かるぜ」

小鉄 「ミミ」

ギン 「あいつらに、ほんとの海の男ってモ

ンを見せてやれ」

小鉄 「ミああ！」

野盗たち、父親の船を壊そうとする。

小鉄 「やめろ！！」

野盗を殴り倒す小鉄。

野盗 「なんだてめえ！」

小鉄 「その船に触るな！」

呆気に取りれる村人たち。

村長 「あの小鉄が怒鳴るところ、初めて見た

へ  
る

野盗頭「この野郎！」

野盗頭、転がった酒瓶で小鉄の頭を殴る。額が切れ出血し、酒をかぶる小鉄。目つきが変わる。

小鉄「うおおおっ！」

殴られた衝動でフラついたと思いきや地面に両手をつき、蹴りを入れて野盗頭を倒す。

村人「やった！」

村長「おおっミ！」

倒された野盗たちを取りおさえる村人たち。

ギン「やるなあ前」

小鉄「次はどうだ！ かかてこいやコ

ラア！」

ギン「ん？ ミお前酒乱か」

○鍛冶場、昼間

村人 「おーい小鉄、こっち手伝ってくれ」

村人 「こっちも頼む」

小鉄 「あいよ、今行く」

旅支度をしたギンがやってくる。

ギン 「約束のモノ、もういに来たぜ」

小鉄 「あう。まあ剣だね。それと」

ギン 「？」

小鉄 「ミ悪い。やっぱり親父の船はやれぬ

えや」

ギン 「ミそうかあ。ま、いいさ。それより、

お宝が、お宝。あつたんだ？」

左手も差し出すギン。

小鉄 「ああ。ほりよ」

小鉄、金属製の義手を渡す。

ギン 「は？ なんだよこれ」

小鉄 「せっかくなんで、最後の大仕事と思

ってな。あなたの腕を作ったんだ。奴らの

宝物を溶かして」

ギン 「溶かした！？ お宝を！？」

小鉄 「やっぱり両手がねえと不便だよ」

ギン 「お前、本物のバカか！ お宝の価値  
 がわかんねえのかよ！ こんなモン売った  
 っ、一銭にもふりやしねえだろうが！」  
 小鉄 「右腕は金いや手に入んねえぞ」  
 ギン 「ああワソッ。やつぱりバカも御免だ  
 ぜ」

鍛冶場を出て、陸の内地に向かい歩き  
 出すギン。  
 浜へ向かい、船に乗る小鉄。

○ 海と陸へ画面の右と左になるようにし  
 画面左右の逆方向へ向かつて、それぞ  
 れ進む二人。